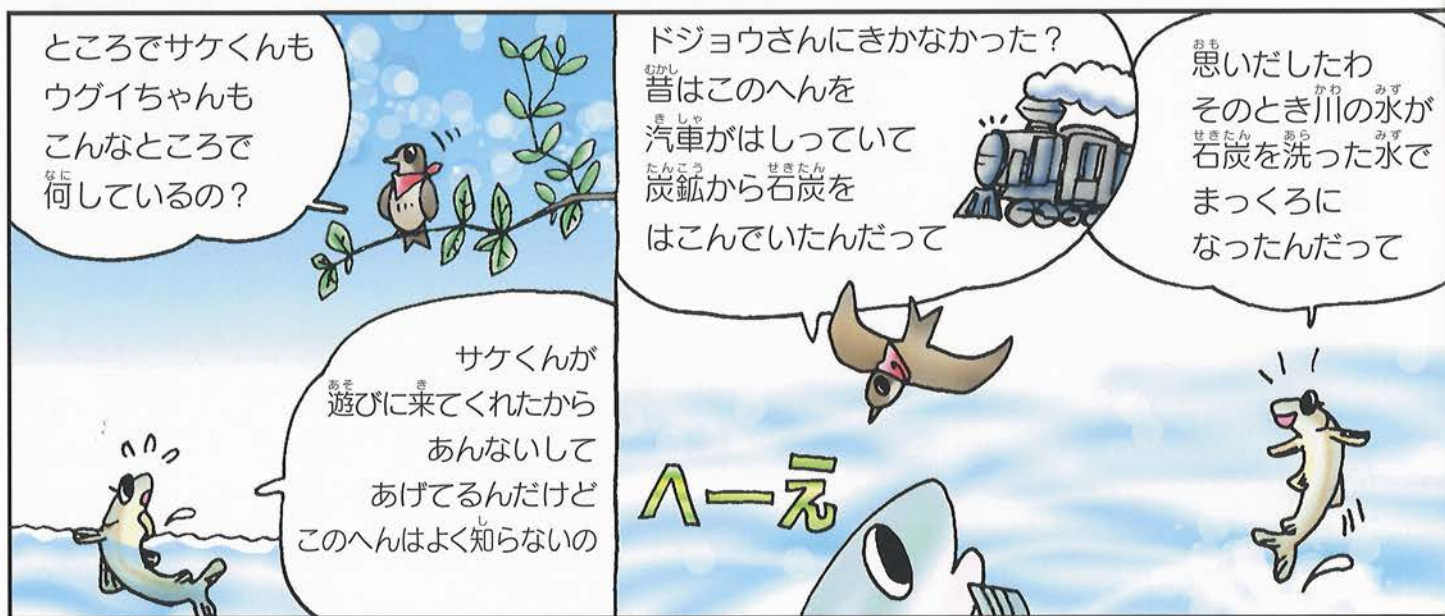


いくしゅんべつがわしゅうへん  
**幾春別川周辺のれきし**



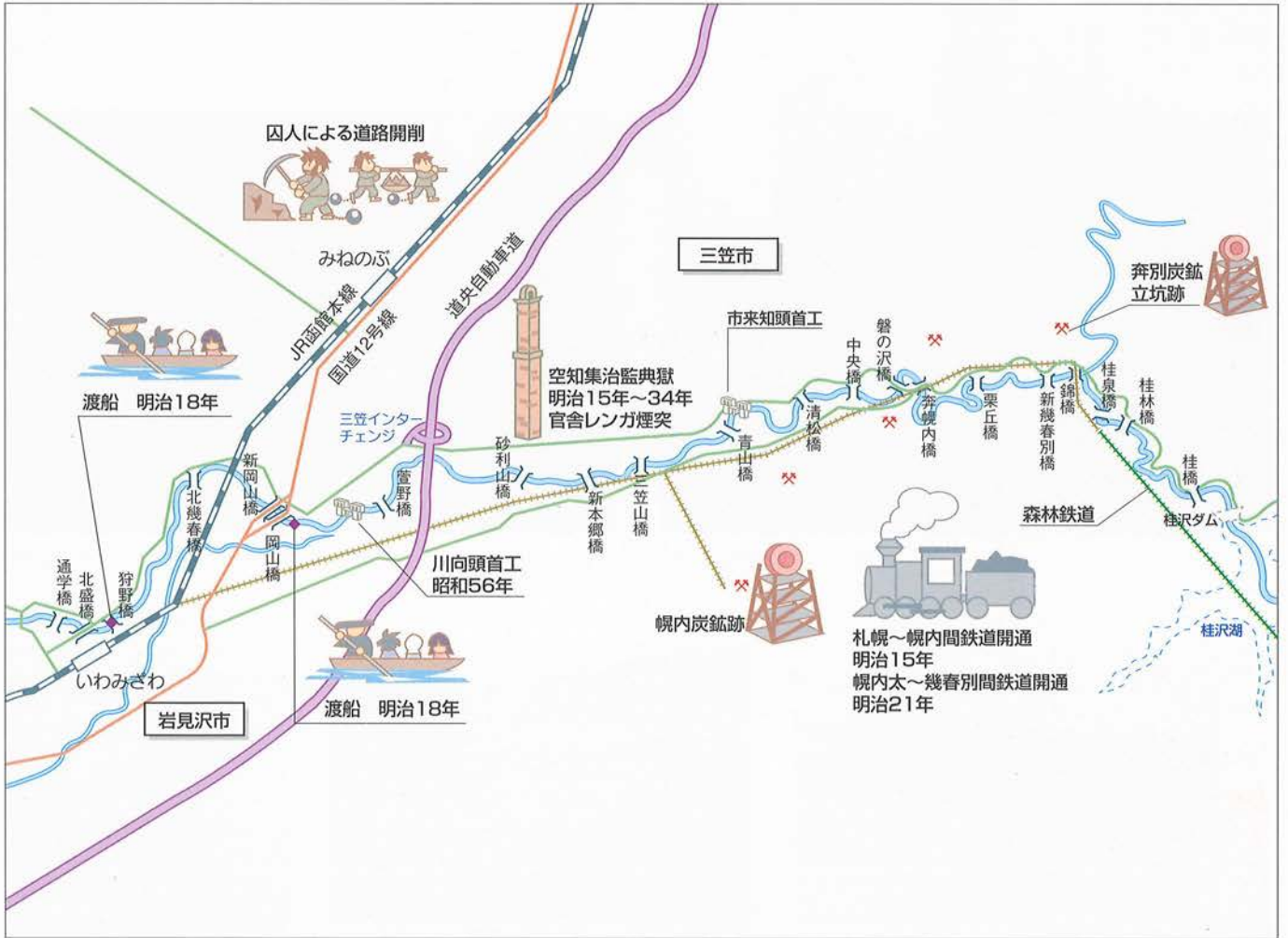
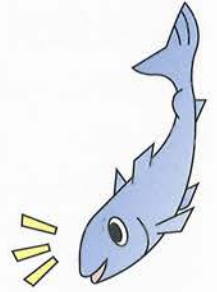
いわみさわまき こうない しょうわ ねんだいごころ  
 岩見沢駅の構内（昭和40年代頃）





調べてみよう (3年生社会科)

昔の鉄道や炭鉱のようす、橋のうつりかわりなどを調べてみましょう

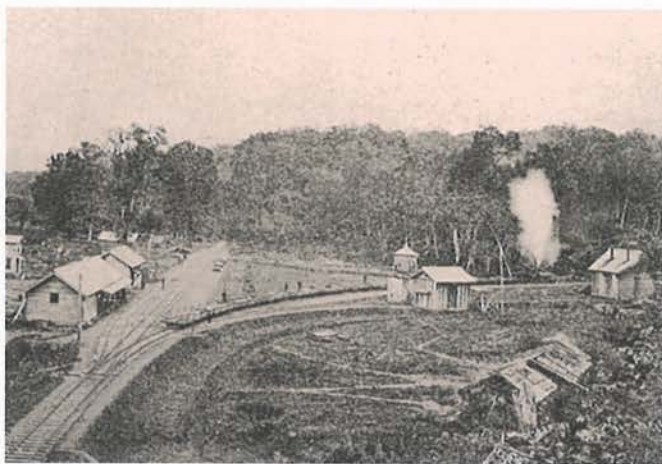




## たんこうてつどう 『炭鉱鉄道』

幾春別川の近くを初めて汽車が走ったのは、今から100年以上も前の明治15年(1882)。幌内の炭鉱で掘り出される石炭を小樽まで運ぶためのものでした。この鉄道ができたことや炭鉱があったので、岩見沢や三笠にはたくさんの人が集まりました。この鉄道は、岩見沢や三笠だけでなく北海道の発展に大きな役割を果たしました。

しかし三笠では、昭和62年(1987)に鉄道が、平成元年(1989)に炭鉱がなくなり、今は人の数も少なくなっていました。



明治10年代の幌内太駅



幾春別の選炭所とボイラー (大正初期)



旧三笠駅



三笠鉄道記念館



奔別炭鉱跡

## しんりんてつどう 『森林鉄道』

幾春別川の上流の山から木材を切り出し、本州へも送られていました。初めは切り出した木を川に流して下流へ運んでいたのですが、昭和10年(1935)頃に幾春別川沿いを走る森林鉄道が作られ、桂沢ダムが出来る昭和32年(1957)まで使われていました。



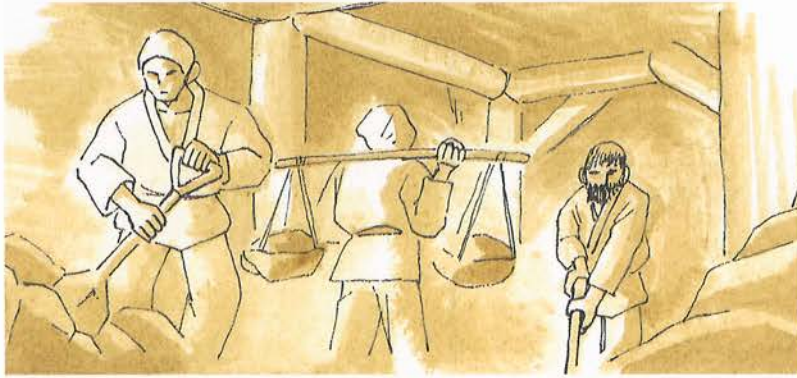
木材を運ぶ森林鉄道



## そら ちしゅうち かん 『空知集治監』

空知集治監(今の刑務所)は、明治15年(1882)に今の三笠小学校付近に作られました。本州で重い罪を犯したり、政府の政治の仕方に反対した人達が入れられ道路を作ったり、炭鉱へ行って石炭を掘り出す仕事をさせられました。

集治監の囚人達の血と汗と涙によって開拓が進められたのです。



そら ちしゅうち かん ねんとつ  
空知集治監の煙突

## はし ようす 『橋の様子』

昔は、あまり橋や道路がなかったので、幾春別川を渡るときは舟を使っていました。それが、しだいに橋や道路が作られ、川の往き来も楽になりました。



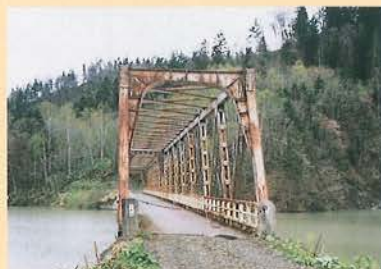
いま かりの はし おかやまはし  
今の狩野橋と岡山橋のところに  
ふね わた とせん ば  
舟を渡す、渡船場がありました。



にしのおはし  
西大橋  
(平成9年完成予定)



いくしゅんべつはし  
幾春別橋  
(大正15年完成現在人以外は通行止め) (昭和31年10月完成現在通行止め)



かみかつらばし  
上桂橋  
(昭和31年10月完成現在通行止め)



みかさやまはし  
三笠山橋  
(昭和57年完成)

はし はば ひろく てつこつ つか  
橋の幅も広くなり鉄骨を使った  
じょうぶ なものがおおくなりしました。

はし はば せま じょうぶ  
橋の幅も狭く、あまり丈夫そうとは言えないですね。